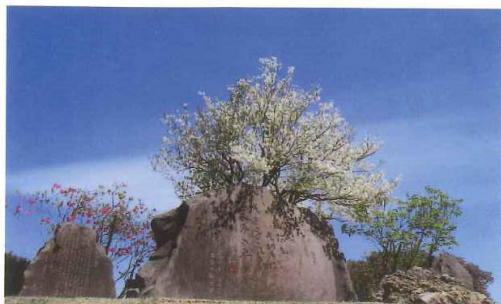


地区だより・下野市/天平の丘公園

だいじょうきゅう

「大嘗宮の儀」歌碑が完成、作者ら除幕式 ～広瀬寿雄下野市長「市が責任を持って管理していく」とあいさつ～



2019年の皇位継承・最重要祭祀「大嘗宮の儀」で詠まれた“悠紀地方の風俗歌”歌碑が下野市天平の丘公園に完成し、3月28日、除幕式が行われた。歌碑の建立は、実行委員会（中川賢一会長）が寄付を募って準備を進めてきた。

完成した歌碑には、宮内庁御用掛の歌人篠弘先生の『三月の淡墨桜を皮切りに咲き広がる天平の丘』の歌が刻まれ、飾り石には細石（さざれ石）が添えられた。

除幕式で広瀬寿雄下野市長は「市が責任を持



▲歌碑建立を祝う広瀬市長（左から3人目）と実行委員会のメンバー

ってこの歌碑を管理していく」とあいさつした。

また、この日、一般社団法人栃木県造園建設業協会から高梨道太郎会長、歌碑のデザインと制作を担当した大橋久也副会長、下野市造園建設業協同組合の有志がお祝いに駆けつけた。

歌の作者篠弘先生は「百年、千年とこの歌が残ることを誇りに思います」と話し、高梨道太郎会長は「さざれ石の配置が見事。添花のヤシオツツジもぴったりで、大橋さんの代表作になった」と喜んでいた。



▲広瀬市長（左）と篠弘氏（左から3人目）



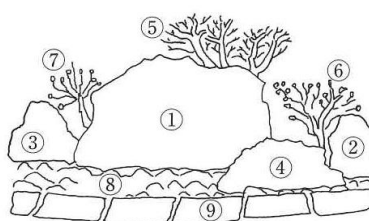
▲篠弘氏揮毫の歌碑



▲除幕を祝う高梨会長（右）と大橋氏

- ①本碑/本小松石（神奈川県産出の安山岩で、庵治石（香川）、万成石（岡山）と並ぶ最高級品。
- ②・③副碑/本小松石
- ④飾り石/さざれ石（岐阜県産出の石灰質角礫岩で、国歌「君が代」に歌われ

歌碑配置図



デザイン・制作/綾竹葉建設

ている“細石”。

- ⑤県花/シロヤツオ（ゴウツツジで、愛子さまのお印として親しまれている。那須地方での自生は有名）
- ⑥県花/ムラサキヤシオ
- ⑦県花/アカヤシオ
- ⑧玉石敷 ⑨盛土/張芝

2019年105号

とちぎグリーンフェスタ2018 ガーデニングコンテスト



【奨励賞】 深山たゆたう樹々

(株)竹葉建設

2018年102号

とちぎグリーンフェスタ2017 ガーデニングコンテスト



【銅賞】 いつか還る里

(株)竹葉建設

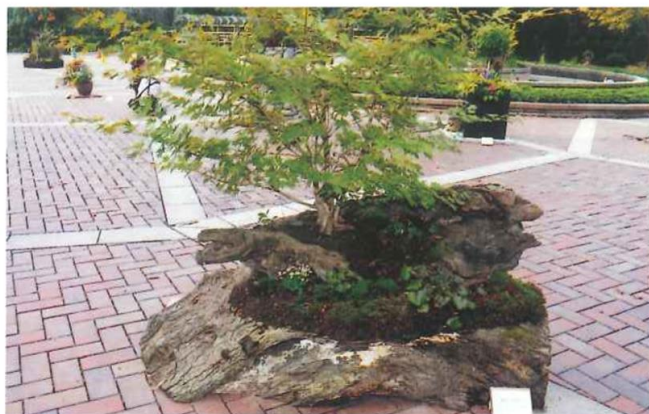
2017年99号

とちぎグリーンフェスタ2016 ガーデニングコンテスト



忍松(しのびまつ)

(株)竹葉建設



自然と山の恵み

(株)竹葉建設（下野市）

2015年94号記事

【下野市】^{てんびょう}天平の丘公園の見どころ ^{おか} 下野市造園建設業 大橋 久也
協同組合理事長

日本三大桜が咲き誇る都市公園に



▲淡墨（うすずみ）桜。つばみはピンクで開花期に白色や乳白色となり、満開を過ぎた頃に淡墨色に変わることから、淡墨桜と呼ばれる。

この春、天平の丘公園と隣接する下野国分尼寺公園が統合整備され、都市公園となった。市の西部に位置し、一帯は美しい自然林で自生の山桜も多く、下野国分寺、国分尼寺跡などの貴重な歴史的文化的遺産がある。

この天平の丘公園には、「日本三大桜」と称される「淡墨（うすずみ）桜」（親木は岐阜県）、「滝（たき）桜」（福島県）、「神代（じんだい）桜」（山梨県）の子孫木が揃っていて、日本三大桜が咲き誇る関東屈指の桜の名所として名高い。

昭和63（1988）年から整備が始まり、順次開園となった。当時の国分寺町長・若林英二氏が町長在任中に招聘（しょうへい）した桜は、他に鎌足桜、西行桜、普賢象（ふげんぞう）などがある。

平成23年の合併5周年を記念した「第49回栃木県植樹祭」では、山梨県民有志から「神代桜」の接ぎ木による苗木が贈られた。また、秋にも花が咲く「十月桜」50本ほどが披露された。菊まつりを楽しみながら同時に桜も楽しめるという、まさに“桜づくしのおもてなし”が用意された。

「桜前線が北上、下野市の天平の丘公園で三分咲き」という天気情報が空耳でなくなる日も間近い。問い合わせは、下野市観光協会（TEL 0285-39-6900）まで。

2012年85号

とちぎグリーンフェスタ2011 ガーデニングコンテスト



【銀賞】 赤松林

(株)竹葉建設 (下野市)



巨樹の恵み 高山洋司 (株)竹葉建設／下野市



川添の輝き 齊藤明 (株)竹葉建設／下野市

現場人間に徹し
「努力」を「仕事」としたい



株式会社竹葉建設
●専務取締役
大橋光明さん(41歳)

新 しんしゅう 梢



青年部会・発②

(社)栃木県造園建設業協会青年部会副部会長を務める大橋光明さんは、昭和44年1月9日生まれ、満41歳。下野市の(株)竹葉建設に入社して20年になる。「努力に勝る天才なし」をモットーに、ひたすら現場に立ち、多くの困難に直面しながらも「現場人間」としての自負と意地で乗り越えてきた。この間、独学で一級造園施工管理士、一級土木施工管理士、二級建築施工管理士の資格を取得。土木・上下水道工事・道路工事・舗装工事まで行う竹葉建設(株)の屋台骨を背負っている。

「たった1本の樹の魅せ方ひとつで庭の表情が一変するので、造園は奥深いし、魅力があ

る。多くの造園仲間にも恵まれ、これからもその仲間と共に切磋琢磨して、業界を盛り上げていきたい」と意欲的だ。

平成2年に妻・由美子さんと結婚。1男2女と両親の7人暮らし。下野市柴在住。長男(小6)が所属し、自ら率いる学童

野球チームが県大会準優勝を飾り、全国大会に出場。また、長女(大1)と次女(中3)はバスケットボールの有望選手というスポーツ一家。



2005年に自ら設計・施工した小山市・松本邸の個人庭園。水琴窟を設けて癒しの空間を演出している。

2002年44号 掲載写真

第一回とちぎグリーンフェスタ「ミニ庭園出展コンテスト」



■最優秀賞

「家庭で子供が楽しめる水辺庭園」

(株)竹葉造園

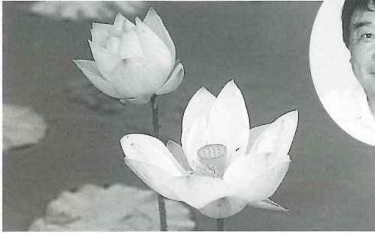
代表者 大橋 久也
国分寺町大字柴1087
TEL0285-44-7688

地区だより

《県南》

国分寺町

(株)竹葉造園が自然環境にやさしい事業を展開 2500㎡の休耕田を「蓮沼」に ビオトープ普及の手がかりにと大橋久也社長



株式会社竹葉造園（国分寺町、大橋久也社長）ではこの夏、2500平方メートルの休耕田を利用して蓮沼を造り、近隣や同じ造園業者の話題を集めている。竹葉造園は昭和53年5月の創業で現在の社員数は12名。そのトップに立つ大橋久也社長は、昭和16年12月12日生まれ、60歳。栃木県造園建設業協会副会長。とにかく自然が大好きで、趣味も山歩きという程だ。そんな大橋社長だからこそ、休耕田を蓮沼に出来たのかも知れない。

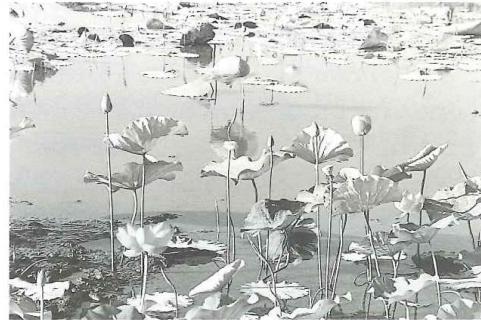
「7月～8月いっぱいまで工事は終わりました。蓮は水質浄化に優れていて、事実この沼に小魚やトンボが増えていくんです。現在、8種類ほどの蓮を混植していますから、隣近所の皆さんや遠くから話を聞いて見学にくる人もいます。種々の花が楽しめるので単植の蓮沼にない賑やかさが好評なんです。それに、



8種類の混植なので見応えのある蓮沼に仕上がった。

あの雌雄一体のかっぱの石像も目を引くらしく、車で通る人が車を止めて眺めていますね。有難いことです。」と話す大橋社長は、「的を得たり」という笑顔を見せた。

それもその筈で、単に人目を引くだけの蓮沼づくりではなく、大橋社長にはある狙いがあるためだ。『ビオトープ』である。野生生物の生息空間という意味のこの言葉は、近年多方面で聞かれるようになった。河川工事や道路工事、あるいは都市公園づくりにも採り入れられている考え方で、これからの自



然環境問題や都市緑化事業には欠かせない理念だ。

「まず人の目を引くことで『ビオトープ』普及の手がかりになると考えています。かっぱの石像など滑稽でしょうが、カッパは水の澄んだ清い所にしか住まないと言われますし、蓮の花も泥（愛情）が深ければ深い程大きな花が咲くと言われています。水がきれいになると、人の心もきれいになるような気がします。」大橋社長の今後の活躍が益々期待される。

＝ハス＝スイレン科ハス属。中国・インド原産といわれ、仏の心をあらわす花として古来から日本人に親しまれている。種子は食用または薬用。基本種は一重だが、半八重、八重咲きと進化したと考えられ、混植は難しいとされている。